



中舞鶴の歴史・くらし探検隊 活動ニュース

第8号

発行 平成28年5月1日

編集 中央公民館

舞鶴市字余部下1167

第7回まち探検

長江寺跡を探索

「中舞鶴の歴史・くらし探検隊」（中央公民館の地元学事業）の第7回「探検」として、3月21日と27日に、長江寺跡（和田の長江地区）を探索しました。竹やぶに覆われてはいるものの、本堂跡の石積みや池、庭石などを確認。多量の屋根瓦や陶器・磁器類の破片なども見られました。



▲竹が生い茂る長江寺跡地。往時をしのぶ池や石積みが残る（平成28年3月21日）

本堂の石積み、庭石などを確認

軍の水道施設も

長江（ちょうこう）寺は、慈覚大師・円仁の開祖。中国で海中に投じた自刻の観音像を和田の浜で再発見したと伝える。昭和17年には軍施設拡張で約3百メートル東の現在地に移転したとされています。

現地は、湾岸の府道から約5百メートル入った五老岳の北斜面にあります。幅約2mほどの道が続いていますが、倒木や土砂の崩落、イノシシによる地面の掘り返しなどでかなり荒れていました。

短い探検時間の中で、敷地のスケッチや写真撮影を行い、昔の絵図と比較してみました。（次ページに続く）

【お断りとお願い】

掲載内容については、今後の探検活動の中で、追記・修正等を行う予定です。掲載内容に関連する情報提供をお願いします。

一緒に中舞鶴の魅力を 発見してみませんか

中舞鶴地域の歴史や生活文化等の魅力をまち歩きなどを通して探索する地元学事業に参加しませんか。27年度に引き続き開催します。

■実施日時

平成28年5月～29年2月の第1日曜を中心に。午前9時～正午（第1回は、都合により5月8日）

■会場等 中央公民館及び中舞鶴地域一円

■参加料 無料

■応募方法等

中舞鶴地域の歴史や文化に興味のある市民（在勤者を含む）なら誰でも。募集人数は20人程度。参加希望者は電話かファクスで中央公民館へ。

■お問い合わせ

中央公民館（電話62-0400、ファクス62-0442）

長江寺跡地は1,200㎡以上？

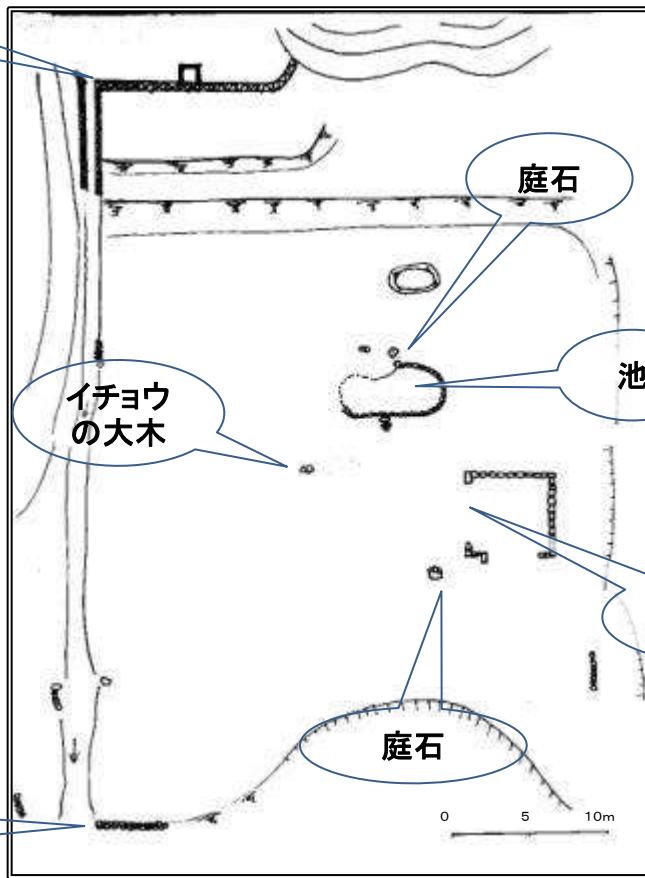
現地を確認できた平坦な敷地は、東西方向に約30m、南北方向に約40m。南側（上流側）には、谷をふさぐ形で設置された堰堤（幅12m）があり、東側に余水が流れ出す水路（コンクリート製）が設けられています。この水路の下流側は、谷からの流水で敷地の一部がえぐられています。また敷地北側の北西隅には幅5m、高さ2mの石積みがあるものの、その西隣は敷地が大きく崩落しています。なお西側斜面の崩れはないように見えます。これらから敷地面積は1200㎡以上あったと推定されます。

土砂で埋まった堰堤。軍が水道施設として設置か？



池の近くにある石

堰堤



庭石

池

イチョウの大木

本堂跡

庭石

石積み (石垣)



▲舞鶴湾を模したとされる池



▲本堂跡の石積みと推測される



▲竹に囲まれたイチョウの大木？



▲敷地北西側の石積み(石垣)、高さは約2m



▲北側の崩落の様子(下流側から見る)



▲本堂と庫裏の間の庭石？

絵図と比べると



探検結果を当時の様子を伝える絵図(上)と比べると、絵図左下にある池や本堂、イチヨウの木が同じものではないかと思われます。また探検で見つけた大きな岩石(左ページの右下写真)は、ちょうど本堂と庫裏の間にある庭石に相当するように思われます。絵図中の庫裏や大師堂が描かれている辺りは、下流側に崩落しており、一部に石積みが残ってはいますが、建物跡は確認できませんでした。

境内の東側は、絵図右の参道に相当するところと思われませんが、谷水等により敷地がえぐられ今にも崩れそうになっています。

「思出」(旧長江寺全景図) (部分) (昭和57年復元下書き、平成8年3月製画) 地元で生まれ育った故・瀬野勇さん(1926~2012)が描く。南側(谷の上流側)から北側(下流側の舞鶴湾)方向を見た絵図であり、左ページのスケッチは上流側が上、下流側が下となっています。

確認できた遺物

敷地や北側に崩落した地面には、瓦や陶器類の破片を数多く確認することができました。主なものを紹介します。



▲瓦の破片など



瓦や陶器類の破片



鬼瓦。お寺のものでないかな？



長江寺跡がある谷。植林されていて麓からは見えない

麓(上の写真と同じ場所)から北側(海側)を見る。幅約23mの道とその右側に水路(寺谷川)が流れる



麓に残る石塔(上写真とほぼ同じ場所)

旧鎮守府が日本遺産に 祝認定 公開の講演会にどうぞ

鎮守府が置かれた共通の歴史を持つ旧軍港4市(横須賀市・呉市・佐世保市・舞鶴市)は、日本近代化の技術や海軍由来の食文化などの遺産を生かしたまちづくりを進めるため、日本遺産への認定を文化庁に申請。去る4月25日に認定されました。

探検隊では舞鶴鎮守府のお膝元・中舞鶴との関わりを学ぶため、次のとおり公開の講演会を開催します。お気軽にどうぞ

日時 平成28年5月8日(日) 午前9~11時

会場 中央公民館・研修室

内容 日本遺産認定の概要

講師 松本達也氏(舞鶴市地域づくり・文化センター室 文化振興課 文化財係長)

対象 日本遺産や中舞鶴のまちに興味のある方なら誰でも。

「日本遺産」とは

地域の歴史的魅力や特色を通じてわが国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産(Japan Heritage)」として文化庁が認定。初年度の平成27年度認定は「日本茶800年の歴史散歩」(京都府)など全国で18件。旧軍港4市が共同申請したストーリーのタイトルは、「鎮守府 横須賀市・呉・佐世保・舞鶴~日本近代化の躍動を体感できるまち」で、これを含む19件が新たに認定されました。

【お問い合わせ】

探検隊事務局(中央公民館 電話62-0400)

中舞鶴の昔ばなし

その② 蛇島の大蛇

佐波賀(さばか)は、大浦半島の西部にあり、舞鶴湾に面する漁業と農業が盛んな村です。近年は、地元の野菜である佐波賀だいこんの栽培が復活したことで一躍注目を浴びています。佐波賀は、中舞鶴から車で行くと、東舞鶴港を半周しなければならない遠くの村という印象がありますが、人々の移動手段が舟であった時代は、蛇島のそばを通れば対岸の

近くの村ということで、余部下や長浜の村々との交流が盛んだったようです。

さて、この佐波賀、もともと、村人は、蛇島の対岸にある「子ナギ」という谷あいの土地に住んでいたそうです。ところが、蛇島に棲む大蛇が、夜な夜な海を渡り、村人を襲うようになったので、村人は、谷あいの土地を捨て、元の谷を境に、東側の平に近い上佐波賀と西側の千歳に近い下佐波賀に分かれて移り住んだそうです。

この大蛇は後に、雲門寺の開祖、普明国師が退治したと言われています。

(鈴木 隆)